

コロナ禍での松楠会の活動

松楠会 会長 梶野 雅義



コロナ禍の中、会員の皆様方におかれましては、日々の感染症対策に取り組み、ワクチン接種を期待しながらも不自由な生活を過ごされていることと存じます。

松楠会は、本年度も理事会、評議員会（総会）をやむなく書面議決にしました。理事・評議員一人一人の方から書面で寄せられたご意見を参考にして、「このような時だからこそできることは何か」ということをテーマに1年間活動していきたいと考えています。

さて、昨年度から「会則」と「会計」の見直しをしてきました。「会則」については、令和の時代に合うような方向で見直しました。「会計」については、学生数の減少等からかなりの収入減になっているので、収入減に見合う予算案の作成のため、支出の削減について数年かけて検討する予定です。

また、同窓会館では諸先輩から寄贈された貴重な作品を展示・保管していますが、大学構内の工事等の関係で同窓会館での展示・保管ができなくなるので、作品の移転と展示・保管の仕方の検討が課題となっています。

このように様々な課題が生じた時には、関係者の皆様方と知恵を出し合って、課題の解決に向けて取り組んでいきたいと考えていますので、ご協力よろしくお願いたします。

終わりになりますが、今まで20年近く松楠会を支えていただいた事務局の岡田さんが退職されました。会員の皆様と共に心からお礼を申し上げたいと存じます。

教育学部の現状と改革状況

教育学部長 野崎 武司



いま日本の教育界は、「令和の日本型学校教育」の実現という大きな流れの中にあります。社会のあり方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来を前に、数々のキーワードで学校教育の転換が求められています。個別最適な学びと協働的な学びの実現、GIGAスクール構想の中でのICT活用、履修主義と修得主義とを適切に組み合わせる、などなど少し取り上げるだけでも新しい時代に向けての課題の大きさが伝わります。

教員養成学部には、こうした改革への対応が強く求められています。令和3年3月には、「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等のあり方について」と題した諮問が提起されています。そこでは、①教師に求められる資質・能力の再定義、②多様な専門性を有する質の高い教職員集団のあり方、③教員免許の在り方・教員免許更新制の抜本的見直し、④教員養成大学・学部、教職大学院の機能強化・高度化、⑤教師を支える環境整備などが焦点となっています。

こうした社会の大きな変化に対して、しっかり対応していくことは不可欠ではありますが、一方に教職の多忙化、ブラックイメージの流布、教職離れといった問題もあります。四方に課題を抱えながらという現状ではありますが、香川大学教育学部の底力をしっかりと発揮していきたいと考えています。松楠会の皆さま方におかれては、今後ともご支援いただけますよう、よろしくお願いたします。

退職を迎えて

内藤 浩忠



思い起こせば、香川大学教育学部とご縁ができたのは約36年さかのぼる。

そのころ私はまだ大学院生で、研究を続けられる職を求めている。当時は空いている職は少なく、募集があればどこにでも応募するしかなかった。ある晩、応募先の香川大から採用通知の電話連絡をいただいた。翌日から京都の研究集会に出席予定だったことから、そのあとに香川大に挨拶に伺うことになった。千葉県で生まれ育った私にとって初めての中国地方、宇高連絡船、四国の旅であった。すっかり公務員住宅の手配まで頼んでしまった。帰りは瀬戸内としては珍しい大雨だったが、これからも好きな数学の研究が続けられると思ひ、心弾んだ旅であった。

着任してからは讃岐うどんを食べ、コシの強さがかたいとは違うことを知り、実家の近くのうまいと思っていたうどんも食べたくなくなりました。瀬戸内の鯛の旨さを知り、和三盆の甘さと香りを覚え、いつしか高松に永住することとなった。

整数論の研究も得られた成果よりもやり残した方がはるかに多く、宿題山積み状態で退職の日を迎えてしまった。今後とも細々とでも続けられたらと思っている。香川セミナーという研究会を立ち上げ、多くの方々のご厚意によって30年近くも続けることができた。研究者との交友が広がったことがうれしかった。

着任したころは理学部的な数学を教えるだけで精一杯だった。いつしか、教員養成学部らしい数学を模索する必要性を感じだし、追い求めてきたが、難しい課題であることに気がついた。教育学部もだいぶ縮小されてしまい、ゆとりもなくなってしまっているような気がするが、この課題は現役の先生方にお任せしたいと思う。

ケアレスミスの多い私が長く無事に勤められたのも、皆様のご寛容とご協力の賜物だと思う。皆様方のご健勝を祈り、退職の挨拶とさせていただきます。

定年退職のご挨拶

松島 欣哉



私は1987年（昭和62）4月1日に教育学部に着任しました。爾来、2021年（令和3）3月31日に定年退職するまで、34年間に亘り教育学部でお世話になりました。

思い返せば、私の教育学部での勤務は、教育学部の改組と重なっていました。着任した1987年の教授会では、いわゆる「新課程」に関して侃侃諤諤たる議論が戦わされ、翌1987年4月には4つのコースからなる総合科学課程が開設されました。

1995年4月には、大学設置基準の大綱化に伴い、一般教育を担っていた教員の再配置が行われ、総合科学課程の言語文化コースと人間文化コースが廃止され、人間発達環境コースが新設されました。さらに、1998年4月には、工学部新設に伴い理系の多数の教員が教育学部から移動し、総合科学課程が廃止され3つのコースからなる人間発達環境課程が新設されました。

この間、私は教員養成課程の授業も担当しながら、言語文化コース、人間発達環境コースおよび国際理解教育コースの学生指導と授業担当に深く関わってきました。この2月・3月、研究室を片付けていると、34年間に溜め込んだオリエンテーション時の写真や卒業写真、皆さんの自己紹介を兼ねた文集が出てきて、当時の思い出に耽り片付けは遅々として進みませんでした。

退職後は晴耕雨読ができると楽しみにしていましたが、今は、その前に狭い自宅に持ち帰った書物をどうやって並べるか、頭を痛めています。ダンボールを開いて出てきた本を見ると、また思い出が蘇ってくることもあります。

この34年間、様々な思い出がありますが、大切な時間を共有できた皆さんに感謝しつつ、ご多幸・ご健勝を心より祈念しています。

転出のごあいさつ

妹尾 理子



香川大学では14年間お世話になりました。長い間ありがとうございました。現在は埼玉県越谷市にある文教大学教育学部において、香川大学と同じく小・中・高校の教員養成に携わっています。長かった単身赴任生活が終わり、久しぶりに家族のいる家に帰ることができました。

瀬戸大橋がかかる前に生まれ育った岡山から関東に出てしまった私にとって、香川大学に勤めるまで、四国や香川県は海の向こうの未知の世界でした。それが今ではふるさとのような存在となっています。豊かな自然、衣食住の文化や伝統工芸等、地域の豊かさを満喫しながら教育や研究に取り組めたことは本当に幸せだったと、いま改めて感じているところ

です。できれば家族を呼んで高松で暮らしたいと何度も思いましたが、残念ながらできませんでした。

在職中は同僚の先生方や職員の皆様、多くの卒業生や学生の皆さん、学校現場の先生方、地域の方々等、たくさんの素敵な出会いに恵まれ、楽しく充実した時間を過ごさせていただきました。本当に感謝しております。できましたら今後もこれまでのご縁を大切にさせていただき、休日をすごすためだけでなく勉強や研究のためにも香川を訪れたいと願っています。

最後になりましたが、これまでのご厚情に心より感謝いたしますと共に、皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

ありがとうございました

大熊 裕樹



「楽しい時というのは一瞬のうちに過ぎ去る」・・・離任する今、強く実感しています。大学で行う授業を通して、学級経営や教科教育など、学校において日々実践されて

いること一つ一つの意義を深く捉え直すことができました。文献や先生方のお話を参考に、授業資料を試行錯誤しながら作成する時間は私の至福の時間でした。また、院生の実習指導で実習校を訪れることは、学校現場を新たな視点で見つめ直す貴重な機会となりました。

何よりも、学校教育を取り巻く厳しい状況の中、「先生になりたい」という純粋な夢をもって教師を志す学生の姿を見て、初心を思い起こし、この熱い思いこそ教師の原点なのだと感銘を受けました。これからの教育を支える若い学生から大切なことを教えられました。

先輩、後輩という縦の絆、同輩という横の絆を深めるこの松楠会の一員となれたこと、そこで、創立百三十周年記念行事開催に関わることができたことはとても幸せなことでした。当日出席された、私の小学生時代、中学生時代の恩師2人と撮った写真は貴重な記念写真となるとともに、松楠会のすばらしさを象徴する1枚となりました。

本当に素敵な3年間をありがとうございました。松楠会のさらなるご発展、会員の皆様のご健勝を心よりお祈りいたしております。

母校教員の異動

退職・転出

令和3年 3月31日	退職(定年)	内藤 浩忠	教授	R3.4.1付け名誉教授
	退職(定年)	西岡 圭子	教授	R3.4.1付け名誉教授
	退職(定年)	松島 欣哉	教授	R3.4.1付け名誉教授
	転出	妹尾 理子	教授	
	転出	大熊 裕樹	准教授	交流人事教員
	退職	新見 治	特命教授	
	退職	小川 育子	特命教授	

採用

令和3年 2月1日	採用	杉木 志帆	講師	教科教育分野(社会)
令和3年 4月1日	採用	神野 幸隆	准教授	教科教育分野(社会)
	採用	杉野本勇氣	准教授	教科教育分野(数学)
	採用	杉田 貴瑞	講師	教科教育分野(英語)
	採用	谷口 弓恵	准教授	高度教職実践専攻 交流人事教員
	採用(新規)	大西えい子	特命教授	家庭科教育

併任

令和3年 4月1日	併任(新規)	植田 和也	附属高松小学校長
	併任(再任)	坂井 聡	附属坂出小学校長・幼稚園長
	併任(再任)	青山 夕夏	附属特別支援学校長

昇任

令和3年 4月1日	教授	小森 博文
	教授	中住 幸治
	教授	松本 博雄
	教授	三宅 岳史
	教授	山田 貴志
	准教授	北原圭一郎

訃報

石川 俊夫 (名誉教授)	令和2年6月17日	ご逝去
糸山 東一 (名誉教授)	令和2年6月28日	ご逝去
田中 吉資 (名誉教授)	令和2年7月	ご逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

支部だより

高松 支部 Takamatsu



気軽に参加できる総会を

高松支部では、総会時の講演会等の様子を「会報」(年1回発行)に掲載して発行したり、今までの総会の足跡をパンフレットにまとめたりして、活動の概要を発信しています。また、事務局は、現職の教頭先生やOB会員、若手教員研修担当などで組織されており、多様な視点から活動が展開できるよう努力しています。「久しぶりに会ってみませんか 校庭で語り合った笑顔の似合うあの人に」を合言葉に、総会時に幅広い年齢層の会員に参加してもらえるよう努力を続けています。

後藤 文男 (教育・昭和46年卒)

丸亀 支部 Marugame



本年も慶弔活動以外は、休止いたします。

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、オリンピックが延期され、すべての学校が登校を止め、多くの行事が中止されました。丸亀支部でも、慶弔活動以外の活動を、休止しました。これは、支部結成以来、初めてのことだと思います。

今年も、状況は好転しないようです。そのため、本年も役員会や総会の活動を、休止いたします。しかし、慶弔活動は行います。1日も早く、以前から行ってきた、楽しく思い出深い支部活動ができることを願っています。

前田 伸雄 (学芸・昭和40年卒)

坂出 支部 Sakaide



総会で
若年研修会について
報告(令和元年)

講話
「南海トラフに備えて」
(令和元年)



松楠会坂出支部は、地区会員99名、現職会員137名の計236名で活動しています。

近年は附属坂出学園4校園が実施している若年教員や地域のニーズに応じた研修会への支援を行っています。そして、総会の折に、それらの研修会の報告をしたり、講師を招いて講話を聞いたりし、交流を深めています。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、総会が中止となりましたが、今後も、こども園や幼稚園、小学校、中学校の先生方の支援を継続しつつ、支部会員の交流を深めていきたいと思えます。桑原 育子 (教育学部・平成3年卒・坂出市立西庄小学校)

大川 支部 Okawa

令和2年度松楠会大川支部総会は、新型コロナ感染拡大防止のため、中止となりました。8月4日(火)の役員会・評議員会では、総会に関する協議の他に、松楠会支援事業として開催してきた「動くおもちゃ作り・木工教室」についての事業報告やさぬき市HP掲載資料等を基に、情報を共有することができました。

まだまだ、新型コロナウイルスへの対応が必要な状況は続きそうですが、会員の研修、懇親の在り方を探ってまいりたいと考えています。

山中 正治 (教育・昭和62年卒・さぬき市立志度小学校)

小豆 支部 Syozu

令和2年度、小豆支部の活動内容は、全くゼロに等しいものでした。コロナ禍の影響によると言えますが、そんなに単純なものだけではありません。活動内容の乏しさは今に始まったものではありません。



ません。真剣に考えるべき課題です。

それはさておき、2年度唯一の活動内容は、役員だけによる「松楠会会報」の配布と会費の集金活動のみの乏しいものでした。

小豆支部の2年度の会員数は、130余名の小さな支部です。この小さな支部をどう活性化すればよいか、今後の大きな課題です。

坂下 公臣 (学芸・昭和37年卒)

木田 支部 ————— Kita

松楠会木田支部の活動は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため総会が中止となりましたので、7月8日(水)に三木町立平井小学校で行われました役員会のみとなりました。

役員会では、総会に関する協議(書面決議を行う)の他に、木田郡内での情勢について情報を共有することができました。

新型コロナウイルスに関しては予断を許さない状況が続いていますが、会員の研修ならびに懇親の在り方を模索してまいりたいと考えています。

児玉 博美 (教育・平成2年卒・三木町立平井小学校)

綾歌 支部 ————— Ayauta



令和2年度の総会〈5月9日(土)〉は新型コロナウイルス感染予防のためやむなく中止となり、寂しい5月となってしまいました。しかし、6号目を迎えた綾歌支部だよりは、OB会員(計161名)の近況報告はもとより、現職会員(計175名)の先生たちのコロナに負けじと頑張るエネルギッシュな声もたくさん寄せられました。若手会員活性化事業の紙上発表(写真)もあり、支部だよりが会員の情報源、交流の場となり、コロナ禍の今を乗り越える元気の発信源ともなっていることに感謝と意義を感じています。3年度の総会〈8月21日(土)〉こそは、現職会員も加え、爽やかな笑顔で仲間が集い、歌い、歓談出来ますようにと祈るばかりです。

鷺辺 達子 (教育・昭和45年卒)

仲善 支部 ————— Tyuzen



仲善支部では、OB会員195名、現職会員143名の計338名が所属しており、総会と新年祝宴の会を盛大に開催しています。懇親の場では会員が講師になり、吟詠やヴァイオリンの演奏、折り紙教室、絵画パフォーマンス等を行っています。どの活動も会員の皆様に好評で、毎年楽しみにしてくれています。

昨年度は、残念ながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、総会も新年祝宴の会も中止せざるをえませんでした。早く収束して、会員の皆様が安全・安心に集えるような状況になってほしいものです。さらに、現職の会員の皆様の参加を呼びかけ、どの世代の会員にも興味のある内容にしようと、様々な新しい試みをしていこうとアイデアを構想中です。

今後も、『世代を超えて交流できる同窓会』を目指して、活動したいと思います。

石井 恭子 (教育・昭和51年卒)

三観 支部 ————— Sankan



令和2年3月に予定の総会はコロナ禍のため結局中止となり、新年度2・3年の活動を開始した。これまでの実践を見直す機会が得られた。2年間をひとサイクルとするので前年は2年間の会費の徴収と本部と支部の会報の配布が主な活動である。会費の徴収では会員の高齢化による諸問題があり、無理のない範囲での徴収が了解されている。支部会報の発行は2年間に1回発行のこれまでも大切にされてき

た活動である。この会報も時代によって変わっていったよものとする。事業や会計、役員などの紙面は変えられないが、会員による紙面づくりは今回かなり変えることができた。若手の執筆起用ができたのは会長の想いが熱かったからである。また総会での講話予定の講師による記事が掲載できたことも新鮮さを生んだ。同窓生のつながりや生き方を提案できるような魅力的な会報をこれからも目指したいものである。経費の関係もあるができればカラー印刷にしたいものである。

片山 祐子（教育・昭和43年卒）

兵庫 支部 ————— Hyogo

兵庫支部（紫雲会）では例年6月頃に総会と懇親会、12月頃に若手会員を中心に開催する若手懇親会（将来の夢を語る会）を企画し、会員の親交を深めています。できるだけ大勢の会員に参加して頂けるように、講演会や演芸会を取り入れたり、先輩方から「人生の楽しみ方」のお話を伺ったりして、魅力的な会になるよう様々な工夫をしています。昨年度はコロナ禍で実施できませんでしたが、今年度の総会は10月頃に予定しております。

大坪 恵美子（教育・昭和49年卒）

岡山 支部 ————— Okayama



岡山支部は、毎年8月の山の日には総会・懇親会・秋に支部のイベントを開催して会員の懇親を深めています。昨年度の総会・懇親会は、新型コロナウイルス蔓延防止の観点からやむなく中止しました。例年、本部からのご来賓を交えて親交を深めるとともに、総会後の研修会では、最新の教育課題について研修を深めています。

11月には、令和元年度から県内の各地を訪れ、その地の歴史や特徴を知る活動をしています。昨年は、本陣の町矢掛町の町並み探訪を行い、矢掛町の歴史と文化に触れることが出来ました。また、普段はなかなかお会いできない会員の方が多く参加くださり、親交の輪を広げることができたこともうれしく思いました。

今後とも、充実した支部運営を図りたいと考えています。

小林 巧（教育・昭和55年卒）

徳島 支部 ————— Tokushima

松楠会徳島支部は、平成28年に結成された、14の支部の中では最も新しい支部です。昨年度と同様に今年度も、新型コロナウイルス感染予防のために実施できませんが、毎年、夏に総会並びに親睦会を行っています。親睦会には20名ほどが参加し、近況報告やなつかしい大学時代の話などで盛り上がっています。今後も人と人との繋がりを大切にしながら、松楠会徳島支部を活性化していきたいと考えていますのでご協力をお願いします。

橋本 隆（教育・昭和59年卒・北島町立北島小学校）

令和3年度評議員会（総会）報告

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむを得ず一堂に会する会議を中止し、書面議決としました。

役員155名へ会議資料（案）を郵送し、令和3年6月11日までに、書面議決書の返送をお願いしました。返送された方全員のご承認を得られたため、6月12日に議案は原案通り、承認されました。

これに先立って、会計監査を、5月15日（土）に香川大学教育学部第1会議室にて、基金監事2名、一般会計監事4名をお願いし、会長立合いのもと、実施しました。「収支とも適正、明確に処理され、会計帳簿・証拠書類・預金通帳などすべて正確であった」との報告をいただきました。

役員

会長	梶野 雅義						
副会長	中西真理子						
	貞廣美津子						
	津山 勝義						
顧問	野崎 武司						
理事長	植田 和也						
学内理事	小野 安司	山神 眞一	佐藤 明宏	西田 智子	坂井 聡	片岡 元子	
	山本木ノ実	宮本 賢作	塩井 実香	中島栄美子	清水 顕人	大浦みゆき	
	高橋 智香	稗田 美嘉	大西えい子*	久米 亜弥	谷口 弓恵*		
	(但し、久米、谷口の学内理事期間は、人事交流の期間とする。)						
附属理事	藪内 康則 (高松)						
	鈴木 弘恵*(坂出)						

支部事務局

	郵便番号	住 所・勤務校	担当者
高 松 支 部	760-0080	高松市木太町2613 高松市立木太北部小学校	池田 茂樹
丸 亀 支 部	763-0071	丸亀市田村町973 丸亀市立城南小学校	真鍋 真紀
坂 出 支 部	762-0024	坂出市府中町綾坂889 香川大学教育学部附属特別支援学校	鈴木 弘恵*
大 川 支 部	769-2101	さぬき市志度727 さぬき市立志度小学校	山中 正治
小 豆 支 部	761-4426	小豆郡小豆島町馬木甲68-5	坂下 公臣
木 田 支 部	761-0702	木田郡三木町平木710-1 三木町立平井小学校	児玉 博美
綾 歌 支 部	769-0105	高松市国分寺町柏原1034	鷺辺 達子
仲・善 支 部	766-0005	仲多度郡琴平町苗田160-2	横田 孝志*
三・観 支 部	768-0060	観音寺市観音寺町甲2558-1 観音寺市立観音寺小学校	新田 秀樹
愛 知 支 部	489-0877	愛知県瀬戸市東赤重町1-38-1	糸 綾子
大 阪 支 部	567-0884	大阪府茨木市新庄町6-8	信垣 綾子
兵 庫 支 部	651-2277	兵庫県神戸市西区美賀多台4-7-20	木岡 正雄
岡 山 支 部	701-1211	岡山県岡山市北区一宮892-9	小林 巧
徳 島 支 部	771-3201	徳島県名西郡神山町阿野字五反地187-1	大草 晴香

事務局報告

令和2年度評議員会(総会)の報告については、松楠会ホームページをご覧ください。

令和2年度 松楠会支援事業

- 少年少女ものづくり体験INさぬき (大川支部 代表 頼富 康子 他)

令和2年度 学生支援事業

- 第14回わくわくコンサート (令和3年2月7日(日) サンポートホール高松)

令和2年度 表彰者

- 山本木ノ実 『子どもたちが育つ学級経営～安心な居場所づくりのために～』 出版 2万円
- 植田和也 『特別の教科 道徳』 出版 1万円

松楠会会則

新 (改正)	旧 (現行)
(略)	(略)
第3条 前条の目的を達成するため本会は次の事業を行う。 一 会誌名簿の作成 一 ホームページ等電子情報の更新及び充実 一 会員の修養に関する会合 一 会員の慶弔互助 一 その他適当と認めたる事業	第3条 前条の目的を達成するため本会は次の事業を行う。 一 会誌名簿の発行 一 ホームページ等電子情報の更新および充実 一 会員の修養に関する会合および施設 一 会員の慶弔互助 一 その他適当と認めたる事業
第4条 本会は次の者を以て組織する。 正会員 香川大学教育学部卒業者 (留学生を含む) 香川大学特殊教育特別専攻科修了者 香川大学大学院教育学研究科修了者 (留学生を含む) 香川大学学芸学部卒業者 香川師範学校卒業者 香川青年師範学校及び前身校卒業者 香川県師範学校卒業者 香川県女子師範学校卒業者 客員 香川大学学芸学部 香川大学教育学部 香川師範学校 香川青年師範学校及び前身校 香川師範学校 香川県女子師範学校の旧職員及び現職員	第4条 本会は次の者を以て組織する。 正会員 香川大学教育学部卒業者 (留学生を含む) 香川大学特殊教育特別専攻科修了者 香川大学大学院教育学研究科修了者 (留学生を含む) 香川大学学芸学部卒業者 香川師範学校卒業者 香川青年師範学校および前身校卒業者 香川県師範学校卒業者 香川県女子師範学校卒業者 客員 香川大学学芸学部 香川大学教育学部 香川師範学校 香川青年師範学校および前身校 香川師範学校 香川県女子師範学校の旧職員および現職員
第5条 本会は各郡市別に1支部を置くことができる。県外1地方に相当数の会員のある際は支部を置くことができる。	第5条 本会は各郡市別に1支部を置くことができる。県外1地方に相当数の会員のある際は支部をおくことができる。当分本会に女性部を置く。
(略)	(略)
第7条 本会に次の役員を置く。 会長 1名 副会長 若王名 評議員 各支部3名(支部長を含む)及び会長推薦によるもの若干名 理事長 1名 理事 若干名 監事 4名	第7条 本会に次の役員を置く。 会長 1名 副会長 4名 評議員 各支部3名(支部長および女子1名を含む)及び会長推薦によるもの若干名 理事長 1名 理事 若干名 監事 4名
(略)	(略)
第8条 及び(2カ所)	第8条 および(2カ所)
第9条 会長は、本会を代表して一切の会務を統理し、会議の議長となる。副会長は、会長を補佐し会長事故あるときはこれを代理する。評議員は、本会の重要事項を評議する。理事長、理事は、会長の命を承け本会会務の計画遂行をなす。監事は、会計を監査する。	第9条 会長は、本会を代表して一切の会務を統理し、会議の議長となる。副会長は、会長を補佐し会長事故あるときは之を代理する。副会長の1人は女性部長となる。評議員は、本会の重要事項を評議する。理事長、理事は、会長の命を承け本会会務の計画遂行をなす。監事は、会計を監査する。
(略)	(略)
第11条 本会に顧問若干名を置く。評議員会に諮り会長がこれを委嘱する。顧問は会長の諮問に応ずる。	第11条 本会に顧問若干名を置く。評議員会に諮り会長之を委嘱する。顧問は会長の諮問に応ずる。
(略)	(略)
第12条 本会は、名誉会長を置くことができる。総会の決議により会長がこれを委嘱する。	第12条 本会は、名誉会長を置くことができる。総会の決議により会長之を委嘱する。
(略)	(略)
第17条 総会、理事会、評議員会については、諸般の事情により一堂に会して会議を行うことが困難と会長が判断した場合、書面による議決とする事ができる。	第17条
第18条	第18条
第19条	第19条
第20条	第20条
第21条	第21条
第22条	第21条
附則 本改正は、令和3年6月 日から施行する。	

松楠会支援事業

令和2年度松楠会支援事業の活動報告は、松楠会ホームページをご覧ください

令和4年度松楠会支援事業の募集

高校生以下の児童・生徒を対象にした青少年の健全育成事業、教育活動事業などに対する松楠会支援事業を下記の要領で募集します。

- 1 支援する事業は、松楠会の会員が企画・実施の中心になっているもので、1事業につきおおそ30万円を上限とする。
- 2 提出書類 …………… (1) 企画書 (2) 予算見積書 (3) その他参考資料等
- 3 応募締切 …………… 令和4年1月31日
- 4 提出先および問合せ先 …… 〒760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部同窓会松楠会事務局
メールアドレス: syounan@kagawa-u.ac.jp TEL: 087-832-1414

なお、同一事業の採択は、4回までとします。選考結果については、2~3月中に通知します。対象となる児童・生徒に募集案内チラシ等を配布する際には、この事業が松楠会(香川大学教育学部同窓会)の支援を受けていることを明記し、そのチラシを企画書または報告書に添付して提出してください。



目の前の子どもたちのために

高松市立龍雲中学校 教頭 高木 愛



平成26年度から3年間、交流人事教員として母校である香川大学教育学部に勤務させていただきました。授業のみならず様々な場で多くの学生の皆さんと関わり、私自身も幅広く学ぶ機会となりました。その後、県教育センターで研修業務に携わった際には、大学で指導した学生の皆さんが教員として初々しくも立派に成長していく姿を目にすることができ、大変嬉しく感じました。また、大学の先生方とお会いする機会にも恵まれ、教育学部と学校とのつながりを再認識し、心強く感じております。

現在、私は四国の公立中学校で最も生徒数が多いといわれている学校に勤務しています。限られたスペースと教育資源をいかに活用し一人一人の生徒によりよい学びの場を提供できるか、日々頭をひねりながら取り組んでいるところですが、昨年度から頭を悩ませていることがあります。新型コロナウイルス感染症への対応です。昨年度は突然の臨時休業から始まり、様々な行事等が中止や変更を余儀なくされました。ただ、時間の経過とともに徐々に感染症への対策が分かってきました。現在本校では、多くの教職員で意見を出し合い、その時点での最善を考え教育活動を進めています。今年度の入学式は、体育館入場は新入生のみ、保護者と在校生は各教室で映像配信により参加とし、大人数でも可能な限り密を避け実施することができました。また、4月下旬に行われた部活動紹介では、体育館での発表の様子を1年生の教室へ配信しました。全員が一堂に会することはできませんでしたが、各部の代表が体育館のスペースを広く使い活動内容を実演したことで、より伝わりやすくなったという効果もありました。子どもたちの思いをできるだけ叶えられるよう、地域の感染状況を踏まえ、学校医の先生方や養護教諭の意見をもとに感染症対策を実施することで、保護者や地域の皆様にも本校の教育活動への理解と協力をいただくことができています。

感染症対策に加え、学習指導要領完全実施やギガ端末一人一台配備後のICT活用等、新しく取り組むべきことは数多くあります。このような状況の中、どの先生方も目の前の子どもたちのためにできることを真剣に考え、時間を惜しんで取り組んでいます。感染症の状況はまだ先が見えませんが、子どもたちのためにも先生方自身が生き生きと働けるよう、ホッとできる職場づくりを心掛けていきたいと思っております。



入学式各教室保護者



入学式体温測定装置



部活動紹介1年生視聴



部活動紹介野球部

編集後記 ■ ■ ■

- 原稿執筆にご協力いただきました皆様のおかげで、第58号会報を発行できますことを心より感謝申し上げます。昨年度は、コロナ禍の状況において、同窓会活動も制限や縮小、中止等の対応を余儀なくされました。これまで以上に、人と人とのつながりの大切さを実感する1年だったように思います。まだ厳しい状況は続いておりますが、この経験が同窓会の絆をより一層深め、今後の同窓会活動の発展につながることを願っています。松楠会ホームページの情報も随時更新しておりますので、ぜひご覧ください。

松楠会ホームページ

松楠会

検索

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~syounankai/>



松楠会報

第58号

発行日 令和3年7月5日

発行人 梶野 雅義

植田 和也

編集 中島栄美子

山本木ノ実

片岡 元子

清水 顕人

香川大学教育学部同窓会 松楠会